

市場と商品価格

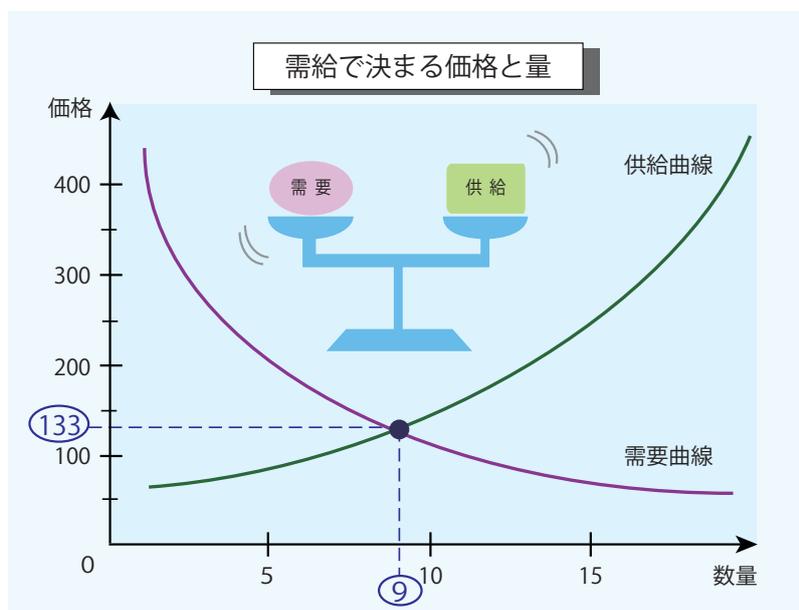
常務執行役員
岡野 進



前回、お金の機能としてモノの価値を測るとは何かということについてお話ししました。お金で測ったモノの価値は実際に取引される時は価格に表されます。価格は市場において、需要と供給で決まるとも言われます。その仕組みについてみていきましょう。

経済学では需要と供給の会う「場」を市場と呼んでいます。市場というのはちょっと抽象的な概念です。ここでは、価格が安ければ買いたい量が増え、売りたい量が減る、価格が高ければ買いたい量が減り、売りたい量が増える、そうしたメカニズムが働く「場」を想定します。

上記のメカニズムを図にしてみたのが下記の需要・供給曲線です。需要曲線は買う側の事情を表しています。この曲線は価格が安ければ買いたい量が増え、価格が高ければ買いたい量が減るという関係を表しています。供給曲線は売る側の事情を表しています。こちらは価格が安ければ売りたい量が減る、価格が高ければ売りたい量が増えるという関係を表しています。その2つの曲線が交わるところが、両者の関係、つまり買う側と売る側の事情が同時に満たされるところ、すなわち実際に取引が成立するところになります。この図の例では、価格が133で数量が9の取引が成立することになります。

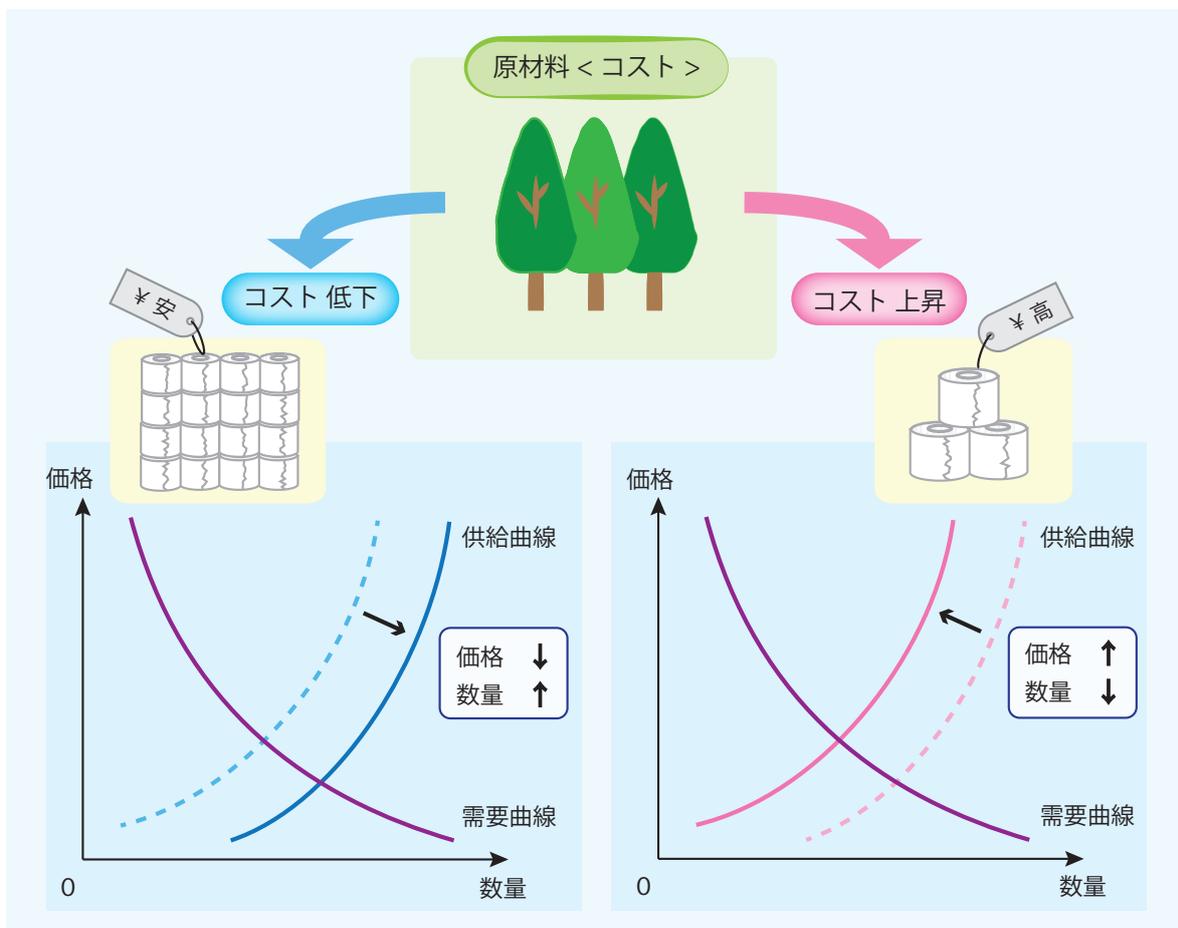


このように価格や取引数量は需要と供給の関係で決まるといえます。しかし、需要(曲線)も供給(曲線)も一定というわけではなく、常に動いています。例えば、需要が強くなるというのは同じ価格でも買いたい数量が多くなるということですから、需要曲線が右上にずれることとなります。供給曲線がそのままだと、価格は上昇、取引数量は増加します。

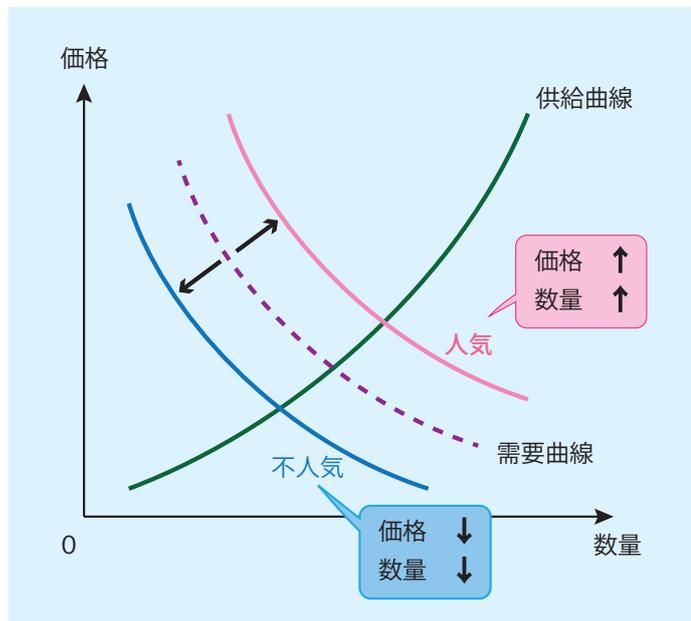
価格は需要と供給で決まるというのは間違いではありませんが、どのように需要（曲線）と供給（曲線）が決まるのかも考えていかなければ、価格は何で決まるのかが本当にわかったとはいえないでしょう。それでは、需要（曲線）や供給（曲線）はどのように決まるのでしょうか？

まず、供給曲線について考えてみましょう。誰もコストより安くモノを売りたいはありません。ただし、損をしても少しでも回収したほうがよいという場合もあります。どういう場合かという、すでに投資してしまった設備の減価償却費は製品を作ろうが作るまいが発生してしまいます。これに対して、原材料などは製品を作らなければ購入の必要はありません。後者の費用を賄えるのであれば、企業は製品を生産して販売することもあります。ということは、供給曲線上で数量がゼロになるところ、つまりY軸の切片はそうした費用で決まるといえるでしょう。価格が上昇するほど企業は供給を増やすことができるでしょうから、曲線はそこを切片にして右肩上がりになるのです。

企業が技術革新などで生産性を上げコスト削減を実現していくと、供給曲線は右下方向にシフトすることになります。そうすると需要曲線は変わらなくても取引される価格は低下し、数量は増加することになります。逆に原材料価格などコストが上昇した場合には供給曲線は左上方向にシフトし、取引される価格は上昇し、数量は減少することになるのです。



需要曲線のほうはどうでしょうか。最終消費財・サービスの場合は、消費者にとって広い意味で「役立つかどうか」の主観の集まりとして需要曲線が決まってくるといえます。誰にとってもまったく「役に立たない」モノはどんなに安くても需要は生じません。逆にとても人気が出た消費財・サービスは生産者に大きな利益をもたらす価格でも需要が盛り上がるでしょう。消費者にとっての「効用」（使用価値という言い方がされることもあります）によって、需要曲線は形作られているといえるでしょう。



原材料などの中間財の場合はどうでしょうか。需要家は価格が上がると生産コストが上がり、利益が圧縮されるため原材料の使用を抑制しようとするでしょう。逆に価格が下がって平均的な利益率より高い利益率が見込めるようになると、生産を増加させようとしています。そうした利益率の見込みによって需要曲線が形作られると考えられます。

機械設備などの資本財の場合はどうでしょうか。景気がよく企業活動が盛んになり投資需要が持ち上がると、資本財の需要曲線は右上にシフトしていくでしょう。そうすると、資本財の価格は上昇し数量も増加します。同時に資本財は設備投資として企業の生産能力を向上させたりコストを削減したりしますから、タイムラグはありますが、これを利用して生産される財やサービスの供給曲線を右下方にシフトさせて価格を下げる効果が出てきます。

供給の側で新しい製品、サービスが生まれ、それが新しい需要を作るという事情もあります。その場合には、置き換えられてしまうような既存の商品の需要曲線は左下にシフトしていくことになります。置き換えが可能な商品間の需要曲線、供給曲線はお互いに影響し合うことになります。

このように需要と供給で価格は決まるといっても、需要と供給の間にも相互に影響を与えていく構図もあり、現実には複雑な過程を経て価格は決まると言えます。

(以上)